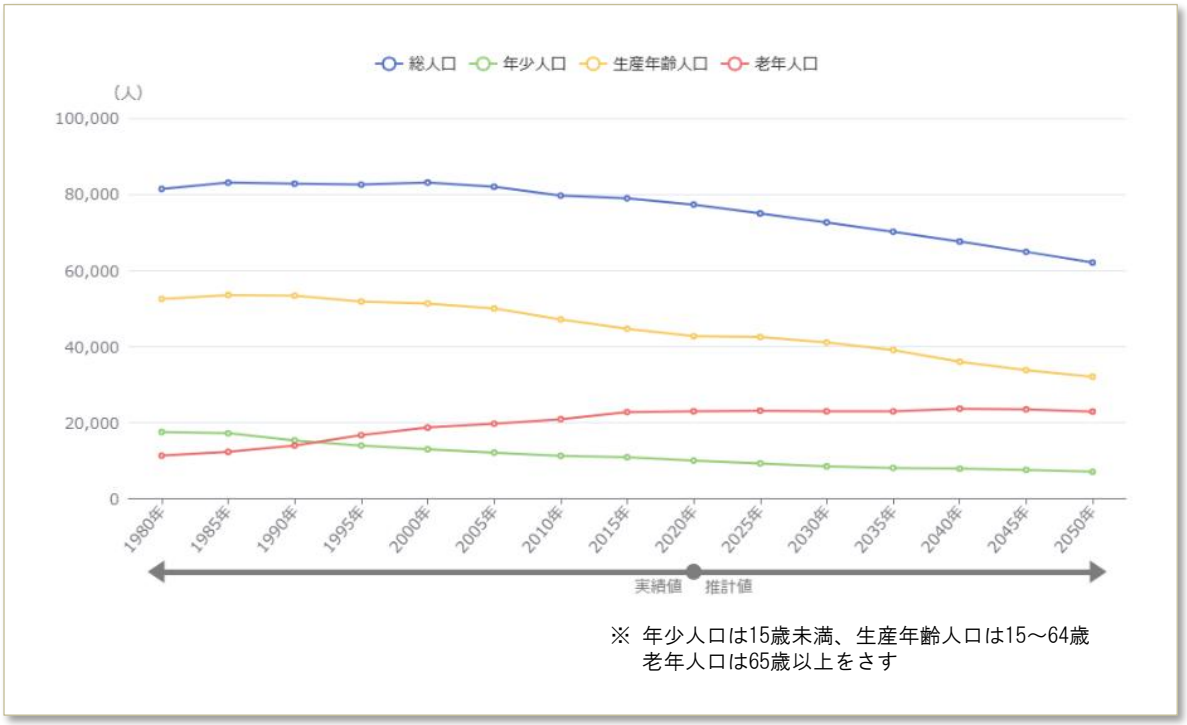
人口

年齢別人口推移

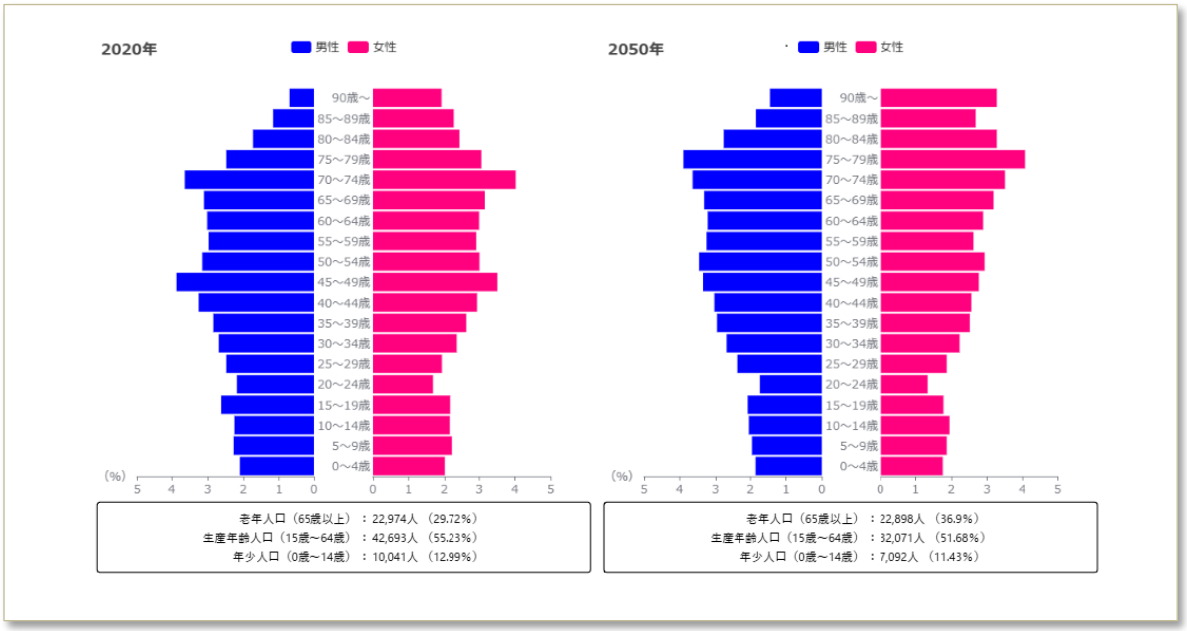
2020年の人口は 77,306人。10年前の 79,652人から減少している。将来人口をみると、今後も減少が続く見込みである。年齢別に今後の傾向をみると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向、老年人口は2030年まで横ばいで以降はゆるやかに増加に転じることが予想されている。



※ 年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳
老年人口は65歳以上をさす

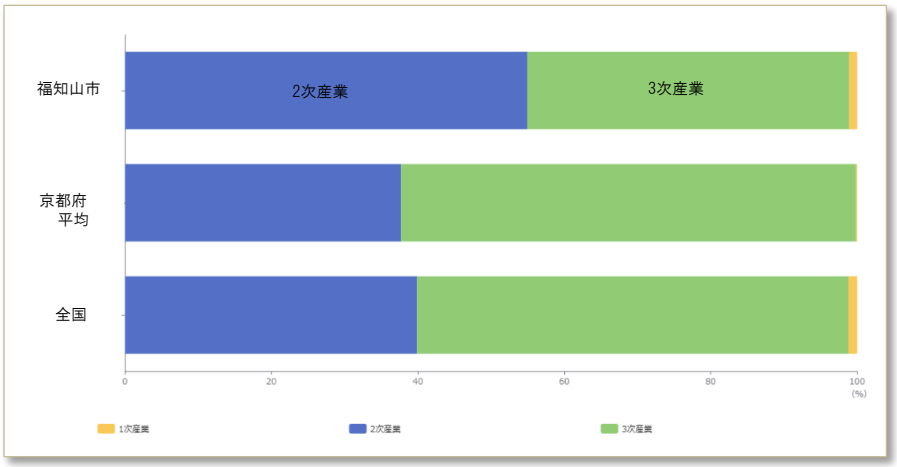
人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。老年人口の割合をみると、2020年の29.72%から2045年には34.87%まで上昇する。一方、生産年齢人口は2020年の55.23%から2050年には51.68%まで低下する見込みである。



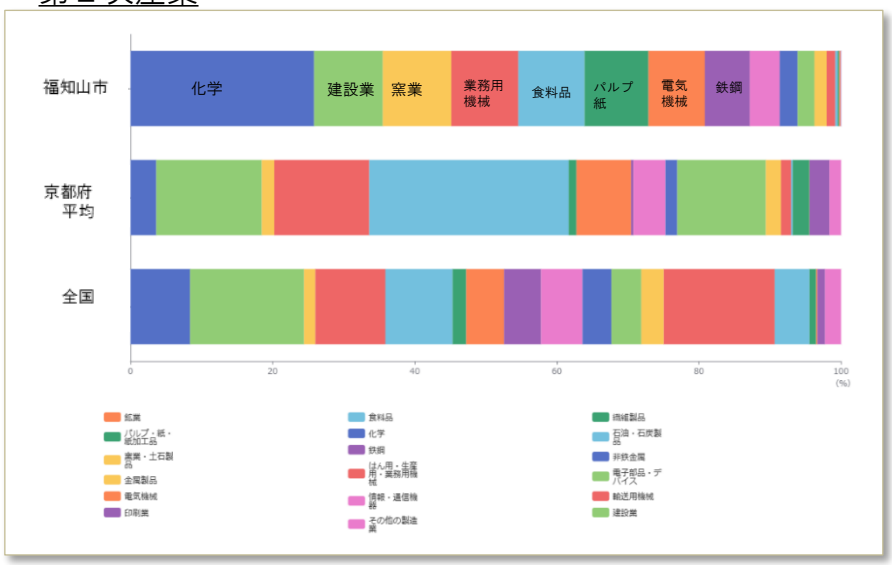
産業構造

地域内産業の構成割合（生産額・総額）（2018年）



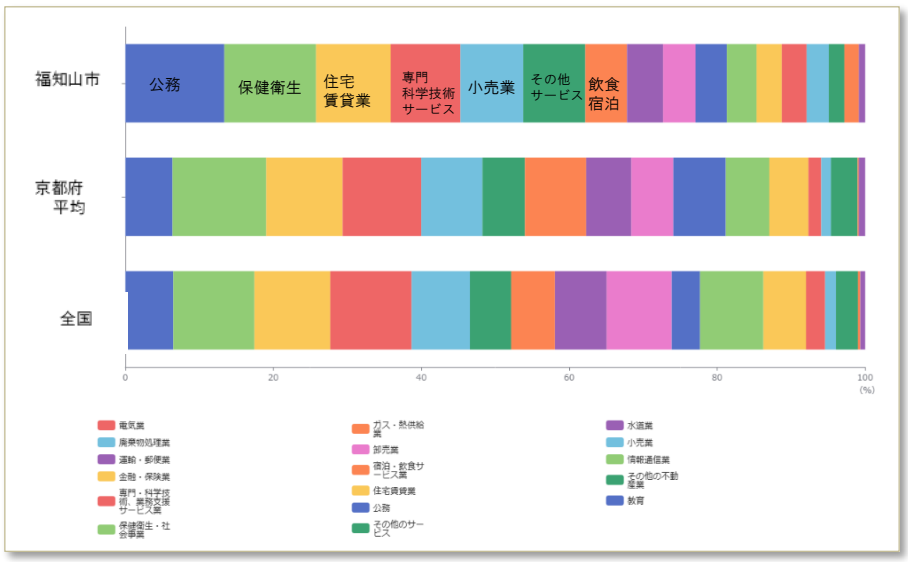
産業の構成割合を京都府および全国と比較したグラフである。
京都府と全国との比較では、福知山市は第2次産業（54.9%）の割合が高く、第3次産業（44.0%）の割合がやや低い構成割合となっている。

第２次産業



第2次産業における構成割合を府および全国と比較したグラフである。福知山市では化学（25.8%）と全国・京都府平均と比べて高く特徴的であることがわかる。

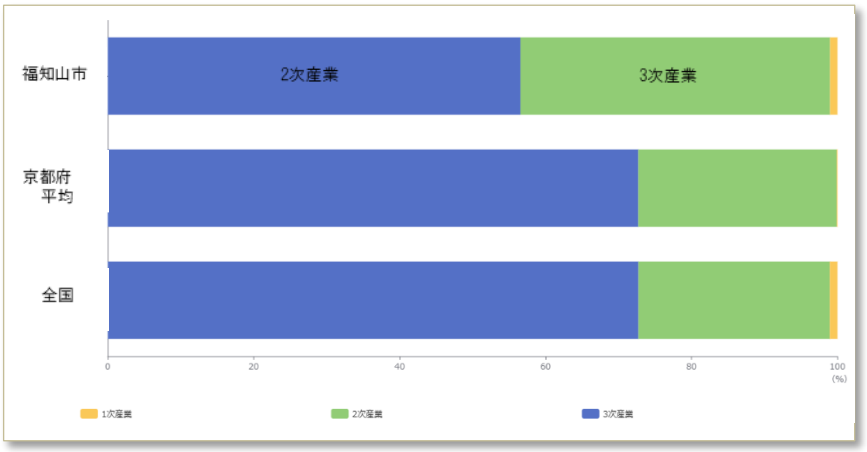
第３次産業



第3次産業における構成割合を府および全国と比較したグラフである。
福知山市は公務（13.4%）と高く、京都府平均、全国と比べて特徴的なのがわかる。

産業構造

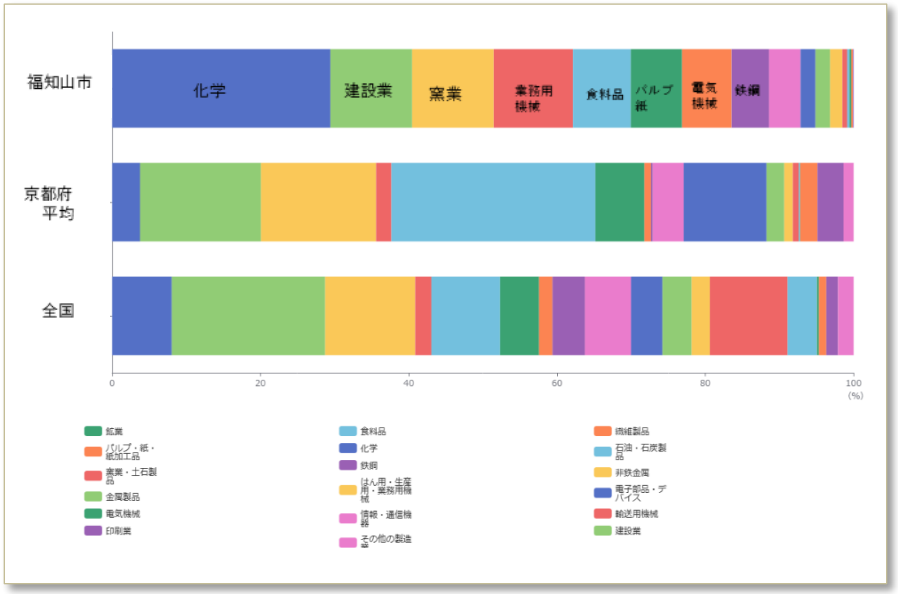
地域内産業の構成割合（付加価値額）（2018年）



付加価値額について産業の構成割合を府および全国と比較したグラフである。

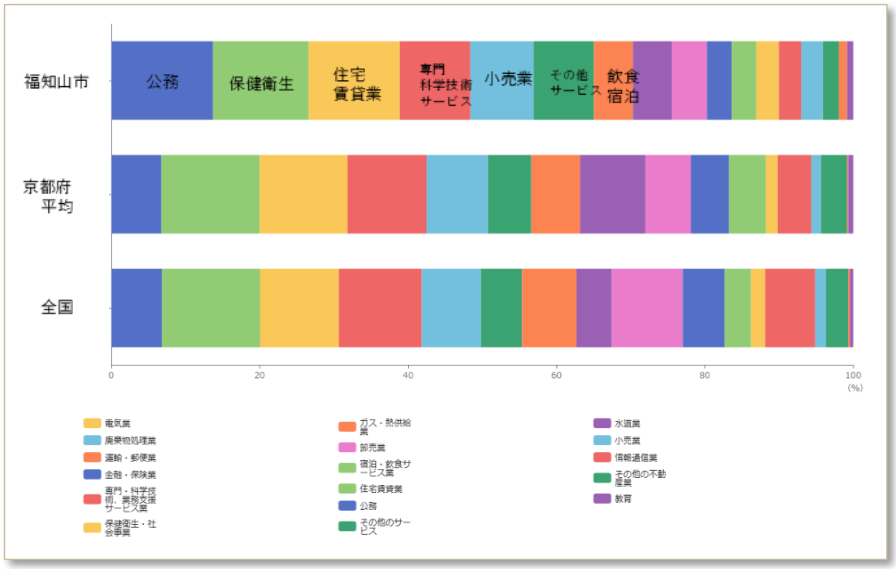
府と全国との比較では、福知山市は第2次産業の割合がやや低く、第3次産業の割合がやや高い構成割合となっている。

第２次産業



産業の構成割合を府および全国と比較したグラフである。福知山市は化学（29.4%）と高く、特徴的である。

第３次産業



第3次産業の付加価値額の構成割合を府および全国と比較したグラフである。

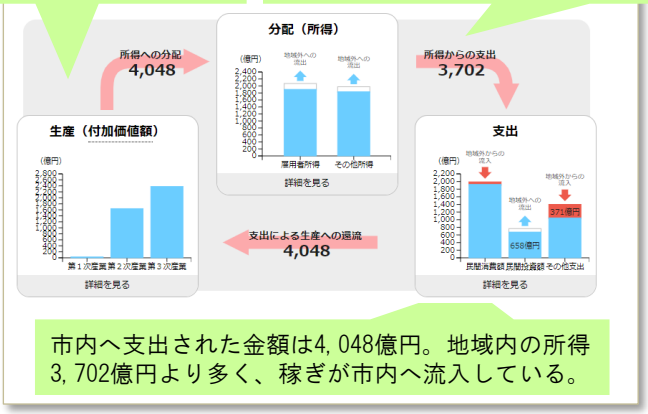
地域経済循環

地域経済循環図（2018年）

地域内の活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて再び地域内に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。

福知山市は4,048億円の付加価値を生み出している。

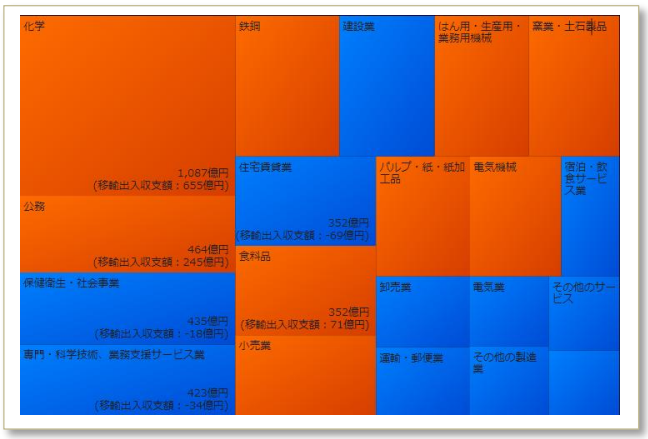
付加価値は市外との流出入により差引3,702億円が市内に分配されて支出に回っている。



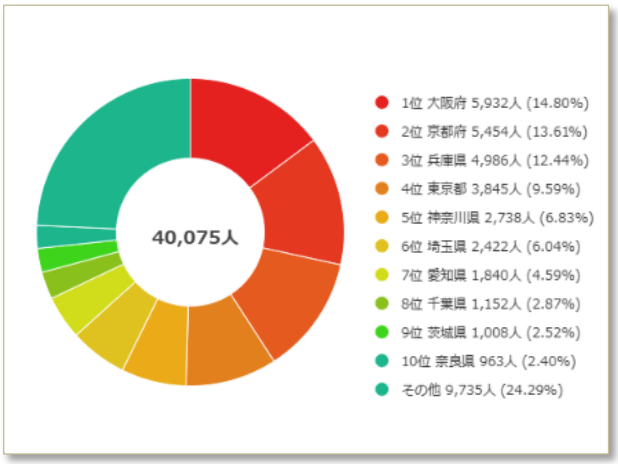
市内へ支出された金額は4,048億円。地域内の所得3,702億円より多く、稼ぎが市内へ流入している。

生産分析（2018年）

左図の生産（付加価値）の内訳を面の大きさで示したグラフである。付加価値が高いのは「化学業」「公務業」である。
グラフの色は、赤色は地域外から稼いでいる産業（移輸出超過）、青色は地域外から調達している産業（移輸入超過）を表している。

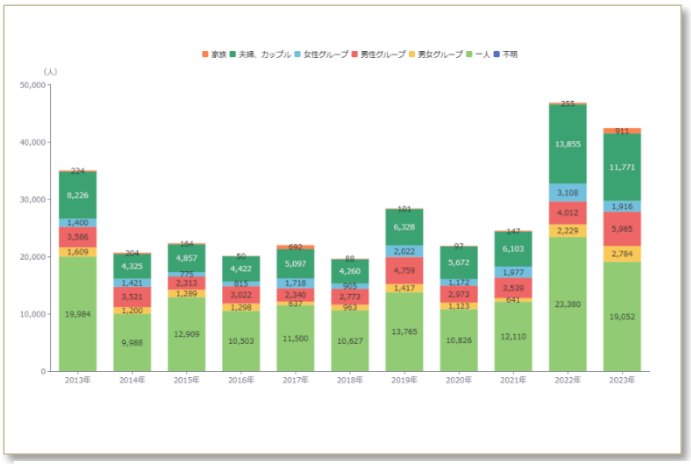


観光



From-to分析（宿泊者）（2023年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。
大阪府が14.8%と最も多く、京都府が13.61%、兵庫県12.44%と続き京阪神地域が40%を占める。



属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

2022年から宿泊者数が増加している。
宿泊者の約35%が一人での宿泊で、ビジネス客が多いことが考えられる。

この経済分析は「RESAS」を活用しています

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータをグラフでわかりやすく「見える化（可視化）」するシステムです。地域の実情をビジュアルに把握・分析できます。誰でも無料で使えます。

福知山市商工会

〒620-0301　福知山市大江町河守398
TEL：0773-56-5151　FAX：0773-56-1797
URL：https://fukuchiyama.kyoto-fsci.or.jp